

2014年4月政情(内政・外交)

1. 内政

(1) 大統領選挙各社世論調査結果

大統領選挙に関して、各世論調査会社は24日に選挙前最後の支持率調査結果を発表したが、各社が異なる結果を出しており、選挙当日の主要三候補による接戦が予想される。

(ア) IPSOS社

PRD党ナバーロ候補34.2%、CD党アリアス候補33.9%、パナメニスタ党バレーラ候補29.1%となっており、僅差ではあるがナバーロ候補が優位に立っている。

(イ) Quantix Panama社

アリアス候補37.5%、ナバーロ候補31.5%、バレーラ候補26.3%となっており、前月より1.6ポイント支持率を下げたものの、2位に続くナバーロ候補との間に6ポイント差をもって、依然アリアス候補が優位を保っている。

(ウ) Dichter & Neira社

アリアス候補35%、バレーラ候補32%、ナバーロ候補30%となっており、依然としてアリアス候補が首位を保っている。

(2) パナマ市長選挙各社世論調査結果

パナマ市長選に関して、各世論調査会社は24日に選挙前最後の支持率調査結果を発表したが、いずれの調査結果もPRD党ファブレガ候補の優勢を示している。

(ア) IPSOS社

PRD党ファブレガ候補43.3%、CD党メンデス候補(現市長)31.7%、パナメニスタ党ブランドン候補24.5%となっており、11ポイント以上の余裕をもってファブレガ候補が首位を獲得している。

(イ) Quantix Panama社

ファブレガ候補43.4%、メンデス候補23.4%、ブランドン候補21.1%となっており、ファブレガ候補が2位のメンデス候補に20ポイントの大差をつけ首位に立っている。

(ウ) Dichter & Neira社

ファブレガ候補36%、ブランドン候補32%、メンデス候補30%となっており、4月1週目の調査時より支持率は低下傾向にあるものの、ファブレガ候補が依然優勢となっている。

(3) パナメニスタ党バレーラ候補のマネーロンダリング疑惑

パナメニスタ党バレーラ候補に対し、今次選挙キャンペーン資金のためのマネーロンダリングの疑いが浮上している旨当地パナマアメリカ紙(政府寄り)が15日以降継続して報じている。同紙の情報源は米国フロリダ州DIARIO LAS AMERICAS紙

であり、この資金は米国インターネット上で行われた不正賭博から発しているもので、26以上のパナマ国内の銀行口座への振り込みがなされており、これらの口座の名義がバレーラ候補が外務大臣職に就いていた当時の外交官2名のものであるとされている。バレーラ候補は右疑惑への関与を否定している。

2. 外交

(1) アルバレス・デ・ソト外相のOAS特別会合出席

8日、「ア」外相はワシントンで開催された米州機構(OAS)特別会合に出席し、パナマが兄弟国であるベネズエラの状態を憂慮していることを改めて表明した。また、ベネズエラに関するパナマからのOASに対する提案は、ベネズエラ国民及び政府への絶対的な敬意を払った上でなされたものであり、ベネズエラの抱える問題は同国民の間で解決されるべきであるとの認識に基づいている旨述べた。

(2) アルバレス・デ・ソト外相のSICA外相会合出席

23日、「ア」外相はドミニカ共和国ラ・ロマーナ市にて行われた中米統合機構(SICA)外相会合に出席した。

(3) マルティネリ大統領とウマラ・ペルー大統領の会談

28日、マルティネリ大統領とウマラ・ペルー大統領は当国大統領官邸にて会談し、治安、貿易、教育に関して意見を交わした。また両大統領は二国間関係の更なる進展について触れるとともに、軍事・航海教育機関への相互の奨学金制度の確立や、パナマへのペルーの造船企業の進出、二重課税条約調印の可能性、旅行及びビジネスビザの期間延長、ペルーへの高品質牛肉の輸出等についても意見を交換した。

(4) アルバレス・デ・ソト外相の第6回AEC首脳会合出席

29日、「ア」外相は、マルティネリ大統領の代理としてメキシコ・メリダで開催された第6回カリブ諸国連合(AEC)首脳会合に出席した。右会合ではカリブ諸国における自然災害への予防及び対策、気候変動、持続可能なツーリズムの振興、貿易等についての意見交換が行われた。

(了)